

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の開設当初より「家族のように我が家のように。いくつになっても自分らしく生きる。」を理念とし、地域密着型サービスになっても理念として運営している。地域密着型サービスとしてこの理念はご本人様およびご家族様、そして地域の皆様思いであり、今後も継続していく。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を居間と事務室に提示し、毎日職員全員で朝礼時に復唱している。日常介護の場面で常に理念が浸透し実践できるように取り組んでいると共に、管理者・職員全員が日々理念に基づいた話し合いができる機会を設け、理念の持つ意味を全員で確認している。また、理念の実践と並行して日々の介護業務の中における職員同士の意志統一の徹底を確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の浸透を図るため、月1回、グループホームで行われたこと、ご本人様の日頃の様子をレポートした「こすもす便り」をご家族様へ郵送したり、こすもすパンフレットに理念を謳い、地域の皆様に配布したり、ご本人様・ご家族様には施設見学時・契約時、或いは介護セミナー開催時など機会がある都度、理念についてご説明し充分理解してもらっていると考えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の小学校への散歩、花屋さんやスーパーへの買い物、クリーニング屋さんへの立ち寄りを、ご利用者様と共に日常的に行っている。また、夏祭りなどのイベント行事に地域の皆様に協力していただけるよう、ご本人様と一緒にイベント告知チラシを持ってご挨拶したりして近所の皆様との交流を深めている。定期的に介護セミナーを自主的に実施しており、オープンでクリーンなグループホームとして皆様に親しまれている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護セミナーの開催、地域の小学校の運動会など地域のイベント、老人会、自治会の定期的な会合やゴミ掃除に積極的に参加している。市役所・地域包括支援センター、担当地区の民生委員長、ご家族様などと取り進めている運営推進会議の定期的開催、担当地区の学徒によるボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>介護セミナーを通してグループホームの介護事業について地域住民にご説明すると共に認知症についても話をし理解してもらい、相談会を実施することで地域の高齢者に対し、母体の消化器科クリニックと共に医療と介護に社会貢献できるように取り組んでいる。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員全員で自己評価および外部評価が介護サービスの向上の指針であることを理解している。自己評価・外部評価を含めた介護サービス向上のための勉強会を日常的に行なっており、具体的な利用者本位の介護サービスの役割・改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、取り組み状況の報告や意見交換をし、そこでの実現可能なものから順次現場の介護サービスに反映している。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>こすもす主催の「夏祭り」や「介護セミナー」で高松市の職員、地区の民生委員会長に参加いただくことで、市町村からのバックアップ体制と共に、日ごころからのサービスの質の向上に取り組んでいる。また、ホームでのイベント活動(防災訓練)にも市の職員をお呼びし、サービスの質の向上に努めている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターの職員を講師として派遣依頼し、社内研修として全職員に対して権利擁護に関する制度の理解と活用について学ぶ機会を持ち、今後必要な人に備えてそれらを活用できるよう支援している。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の徹底を図ると共に、社内外研修による虐待防止の勉強会を行なっている。また、入浴時などに身体観察を行い、理由の分からない怪我などがなくどうかを確認するとともに、精神的な変化がないかを日頃から見て声かけをし、様子を観察するなど防止と共に虐待の早期発見にも心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学时および契約時に契約する上で必要な事柄に関し、誤解のないようご本人様・ご家族様に十分にご説明させていただき、理解と納得を得てご利用いただけている。同意書に印鑑サインをいただいたうえ、利用していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置を始め、各階の玄関に意見箱を提示している。契約時苦情相談機関の説明を行ない気軽に申し出られることを十分に説明している。必要であれば運営推進会議への議題に取り上げたり、市町村に相談し、ご利用者様のクレームについて可能な限り速やかに対応するなどホームの適正を図っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム内での状態などについて、毎月ご家族様宛に「こすもす便り」を郵送し、事業所でのご利用者様の暮らしぶりや健康状態をご報告している。面会時などに口頭で必要に応じてご報告すると共に、金銭管理についてはお小遣い帳を各利用者様に作成しご家族様に合わせ面会時にご報告しサインをいただいている。人事異動については運営推進会議、「こすもす便り」などで適宜報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様等がご意見、ご不満・苦情を遠慮なく言っていただけるよう面会時や行事の際にホームに関するご要望などを気軽に話し合える場を設けており、その場限りの対応にと止めず、貴重な意見として今後のサービスの質の向上に役立っている。意見箱の設置を始め、直接管理者や職員に気軽に言えるよう何か困ったことはないか意見を聴取すると共に、必要があれば運営推進会議への議題として取り上げ、市町に相談し、ご利用者様のクレームについて可能な限り迅速且つ丁寧に対処している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者・職員間で毎月10日に定例ミーティングを行い、日常的に話しあっている。運営方法・改善点について上下関係なく意見・提案を自由に行い、よい提案があれば実行できるものから随時実行している。また、管理者を含めて職員全員が気軽に施設長と話せるよう風通しのよい関係づくりに努めている。健康状態・ストレスなどの衛生管理にも努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>労働基準法による週40時間の労働時間および介護保険法による人員基準を遵守しているなかで、必要に応じて利用者の健康状態により夜勤者を増員したり、通院時・家族会や外出レクリエーションなどで増員が必要な場合は職員と話し合い、増員体制を組んでいる。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者・職員の人事異動については、社の方針として必要最低限にとどめ、ご利用者様本意の人員体制を行っている。馴染みの職員による支援が認知症高齢者にとって必須の条件となっており、無意味な人事異動は極力避けている。但し、入社後の職員の能力に応じた適材適所の人事異動については、プラス効果を考慮のうえ必要に応じて最小限の異動はおこなっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画の中に内部での委員会研修会を計画しており、様々なテーマでトレーニングを行なっている。また、外部の研修は、その都度、職員に情報として連絡し、参加する機会をつくっている。参加者は、研修報告書を提出し、質の向上に活かしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>こすもすは、グループホーム協議会の監事をしていることから、同協議会主催の研修部会に積極的に参加したり、夏祭りを通じてスタッフ間、ご利用者様間の交流を機会があるごとに設け、同業事業者間、相互の研修の場となっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>施設長は、職員が快適な職場環境のもとで働けるよう「衛生管理者」を2名配置し、職場の衛生管理に努めている。また、機会があるごとに新人歓迎会、事業所・ユニット単位のお疲れ様会を行い、職場の活性化に努めている。医療法人であることに連携し、職員の定期健康診断や日頃の健康相談に気軽に対応できるよう職員のストレス解消に取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>施設長は、職員が資質の向上のために、就業規則に職場における倫理規定を設け、社会人としての資質の向上を図っている。一方、社内・社外研修、職場内教育・自己評価抑うつ尺度の学習などを計画的に実施したり、リスクマネジメント委員会、感染委員会、給食委員会など各委員会を設け、各職員が問題意識と向上心を持って職務を遂行することができるよう取り組んでいる。</p>	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた時にニーズを把握し、また、入居前には何度か訪問し情報収集すると共に信頼関係が築けるように努めている。入居開始以降もご本人様との信頼関係は特に大切にしており、ご自身から話されることはもちろん、言葉に表せないことにも配慮できるように入居前にご本人様の性格・生活歴・ご家族様の希望を聞き、信頼関係を早く構築できるように努めている。また、ご本人様の状態が職員の「合わせ鏡」であることを十分に理解し、ご本人様が入所開始からゆったりと生活ができるよう職員間で十分に話し合いを行っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談の時点からご家族様の気になっていること、入居前にご家族様とお会いさせていただく時間を設け、困っていることなど、詳しくお聴きし、不安の解消や入居後の希望、要望をしっかりと聞きしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームとして支援できることをご利用者様やご家族様に初回時から明確にし、ご本人様・ご利用者様がおかれている状況を理解し、入居までの経緯や今一番何に困っているかを把握し、できる限り不安を軽減できるよう支援している。他サービスを利用されていた方は、事業所を訪問し利用時の状態もお聞きしている。居宅サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報をいただいている。必要時は他のサービスの情報を提供したり、代行で他の施設へ連絡をとることなどを行っている。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>介護支援専門員・管理者は入居前にご本人様にお会いする機会を設け、馴染めるよう努力している。また、一人ひとり状態が違うので入居後、個々に応じて自宅への外出・外泊を行なっていただき、いつでも自宅へ帰れることを経験していただくこともある。また、ご家族様の協力を得ながら面会の回数を調整し、徐々に場に馴染める工夫もしている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人様が人生の大先輩であることを理解し、ご本人様の言葉を大切にし尊敬の念を持って対応している。また、リハビリを兼ねて日常生活を共にしながら、ご本人様に役割をもってもらい生きがいを感じていただくと共に、職員はご本人様との共同作業に仕事への情熱を感じている。</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時やホームの行事、担当者会議などで話し合いの場を持っており、日常生活面や身体的な面で喜怒哀楽を共にしてきており、家族と共に歩んで来ている実感がある。また、ご利用者様宛に月1度発送している「こすもす便り」をもとにご本人様の状況をお知らせしたりしてご家族様と共に支えあう関係を築いている。また、機会を見て、ご本人様・ご家族様、地域の関係機関が一同に集った家族会を行っている。</p>	○	<p>ご利用者様の体調などこまめに連絡を取り合っている。ご家族様に足を運んでいただいております。話しを聞いている。</p>
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ご本人様とご家族様の関係は様々であるが、よりよい関係が継続できるように支援している。ご本人様が忘れないようにさりげなくご家族様の話題を会話の中に入れて、面会時はご本人様とご家族様がゆっくりつづける様に配慮している。また、ご家族様にご本人様の生活ぶりや変化など細かく知らせる事をつなかりを断ち切らないよう支援している。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方との来訪や電話でのやりとり、年賀状、知人からの花や小包が届く都度、関係が継続する支援のため、職員がその場に応じた対応をしている。例えば、お礼の電話や礼状を書く支援をしている。また、居室には、馴染みの人を思いだす壁掛け、置物などご本人様に合わせた関係継続の支援をしている。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>ご利用者様同士のトラブルの原因を把握し不安や支障を生じないよう支援すると共に申し送りなどを活用して孤立のない生活を支援している。気が合わない利用者は、座席を変わったり職員が間に入るなど配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退所されたあとも必要であればいつでも気軽に相談できることをお話し、関係を大切にしている。また、ご家族様にもいつでも相談できることをお話ししている。</p>	
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話の中でご本人様の主体性を第一にご本人様の意向を聞き取り、日常の言動を観察することにより、その人の求める暮らしを把握することに努めている。また、ご家族様とも話し合う機会を持つことにより、よりよいケアマネジメントが構築できるよう努力している。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初回アセスメントだけでなく、ご家族様や入所前に関わりのある病院や施設からも情報収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ケアプランにそって支援するなかで、援助した経過とご本人様に対する日常の取り組み状態の結果をケース記録や申し送りノートに記載し、毎朝の申し送りで情報を共有することに努めている。変化があれば、その都度話し合い、状態の内容と対応策を職員全員が共有できるようにしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人様には毎日の会話の中でご本人様が希望する介護ニーズを探り、ご家族様には面会時に希望や不安の相談を聞いた場合には、月次のミーティングにてアイデアを出し合い、各利用者の担当職員を決めて細やかなケアについて十分に検討して介護計画を作成している。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に一度見直しを行い、状態変化があった場合には、再度見直しを行うようにしている。見直しにはご本人様やご家族様、医療機関の関係者、職員が話し合い新たな計画を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>水分・食事・排泄・入浴など個々の生活を毎日記録し、変化があれば、その都度話し合い、状態の内容と対応策を職員全員が共有できるようにしている。個別のケース記録に細かく記入したり、ケアプランの実績表に記録し注意すべき点は、業務日誌に記入し申し送り共有し実践で活かし、日々の介護計画の見直しにも活用している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>面会時間など決めず、いつでも面会に来てもらえるようにしている。また、1階のリハビリ機器を必要時活用している。デイサービスのレクリエーションにも参加している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>毎月レクリエーションの行事予定をつくり、音楽療法のボランティアの方が訪問し、他の階とも交流を図っている。消防訓練にはご本人様も一緒に参加している。避難訓練では、近所の方が誘導して協力をいただいている。中学生の職場体験も行ない交流を図っている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ご本人様やご家族様にとって一番よいサービスが受けられるよう、必要に応じて情報を提供し、他の事業所へも連絡・相談を可能な限り行なっている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターの担当者とは、2か月に一回の「運営推進会議」で情報交換している。不明な点や質問があれば指導していただいている。また、権利擁護についての講習を依頼し、協力をいただいている。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医はご本人様やご家族様の希望により選んでいる。ご本人様・ご家族様の要望を基に、かかりつけ医との連携を密にし、随時受診できるように体制を組んでいる。職員がご本人様の日々の健康状態、服薬の状態などをかかりつけ医に報告し、受診の際に適切な報告がおこなえるよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しい専門医に、行動障害が著しいご利用者様の相談や診断、治療をしていただいている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホーム内に看護師を配置し、常に相談できる関係にある。日頃顔馴染みのある看護師が、毎日各階を巡回し体調に変化がないか確認し合い日常の健康管理を支援している。また、看護についての内部研修をおこなっており、職員による統一した健康管理の支援体制ができています。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>○</p> <p>病院のソーシャルワーカーや担当看護師と電話で連絡を取り合い、現状の把握と調整を共に考え退院が近くなった時は、医師やリハビリ・看護師・ご家族様とカンファレンスの機会を設け、退院後について話し合いスムーズに退院できるよう努めている。また、診療情報提供書や介護添書をいただき、継続して支援できるよう配慮している。</p>	<p>医療と介護でカンファレンスを行い情報提供している。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご本人様・ご家族様の気持ちや考え方に变化がある場合もあるので、入居後に機会を見ながら繰り返し話し合っている。ご本人様、ご家族様の意向を最優先に、かかりつけ医と十分に話し合い、ご本人様、ご家族様、かかりつけ医、職員全員が共通の認識をもっている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご利用者様が重度化、終末期を迎えても、その時点での最良と思われる支援対策について、かかりつけ医、看護師、ご家族様、介護職員全員で協力し検討できるように準備ができています。かかりつけ医と連携し、できる限り入居者様の意思を尊重し、ご家族様の意向も尊重しながら支援に取り組んでいます。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人様が別の場所に移る場合は本人関係者達と情報交換を行い、住み替えに伴うダメージを最大限排除できるよう様々な事項を想定し、十分な話し合いを行なって住み替えのダメージを防止している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人保護の取り扱いマニュアルをもとに、個人情報についての適切な取り扱いをしている。また、一人ひとりの尊厳を大切にしている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自立の可能性を最大限に引き出せるように支援し、残された能力を活用でき、自信が持てるような会話をしたり、自己決定ができるような雰囲気づくりに努めている。ご本人様の思いや希望を尊重し、外出なども自分の意志で決めていただき、ご本人様主体の生活ができるよう常に問いかける姿勢を職員全員がとっている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人様の意向を最優先し、外出や・行事などでもご本人様の希望にそって参加できるよう支援している。その日の体調や気分に合わせて取り組みを行っている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望時や必要時に美容師が訪問し、カットや顔剃りを希望に応じて行っている。ご家族様に散髪してもらっている方や以前からの行きつけがある方は、ご家族様に協力を得ながら連れて行ってもらっている。外出時には、一緒に服選びのお手伝いも行っている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>嗜好を取り入れた個別対応や、ミキサーなどで食べやすい食事の提供を行っている。調理の下準備で切ったり、盛り付け、食事の片付け、流しまで持って来られる方は嬉しい洗い物も一緒に行っている。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>今までの楽しみや生活習慣を継続支援できるように配慮している。おやつや飲み物などの嗜好品は、個別に保管したり居室においてもらうなど、必要ときにいつでも食べられるよう賞味期限や衛生面に注意しながら支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>失禁や失敗のある方には、排泄チェック表で排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行なっている。排泄の誘導は、さりげない言葉でおこない、羞恥心に配慮している。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は曜日を決めずご本人様の希望通りに入浴支援をしている。あまり、入浴したくないご利用者様には、声かけをおこないご利用者様のタイミングに合わせて入浴支援をしている。</p>	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>入居前の生活リズムを入居時にご家族様にお聞きしている。メリハリのある暮らしも考慮しながら起床時間や就寝時間、休息時間は以前の生活習慣を崩さないよう状況に応じ配慮している。また、薬に頼ることなく、精神的安定を重要視している。また、ご本人様が居室で自由に休むことができ、休息の場を提供しており、安眠や休息の支援をおこなっている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の生活歴や趣味を把握し、趣味や役割を再び持つていただき、ご自分のペースで毎日に張り合いが持てるように支援している。また、新たにホームで個々の役割や楽しみを見出す支援をおこない、生甲斐と自信を持って生活できるよう工夫している。</p>	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物レジで、ご自分で支払いしていただき、おつりの確認も一緒に行っている。ご家族様にはお小遣い帳で確認していただいている。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>体調、天候に応じ、買い物、散歩などで気分転換を図り、1か月一度は行ってみたい所に出かけるように試みている。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>墓参り、昔なつかしの場所など個々の外出希望について計画をたてご利用者様と相談しながら実行している。外食を希望する方の支援や家に外泊したい希望の方は、ご家族様と連携をとりながらご本人様が満足する支援を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に会いたいとお話される時は、電話で話す機会をつくり、ご本人様の気持ちが満足されるように支援している。暑中見舞いや年賀状は力量に合わせて職員が手伝い、投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者とご本人様が気兼ねせずに過ごせるように配慮している。デイサービスに来られている知人に会いに行かれたり、訪問していただき交流を図っている。気持よく過ごすことができる場所と時間を提供している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内外研修を実施し、十分に話し合いの場を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	部屋には鍵をかけない。また、階段がひかえる出口には観葉植物などで、あまり目につかないようにし見守りを強化し、安全に配慮できる状況をつくり、時間帯を設け開錠している。不穏時には傍に寄り添い、安心できるように対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご本人様が歩行される際は、職員同士声を掛けてご本人様の気持ちを阻害することなく常に所在の確認をしている。居室のドアを開ける時は必ずノックをし、了承を得てから入るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	医薬品や、危険物(洗剤・刃物)は使用していない時は必ず目と手の届かない特定の場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルをもとに事故防止の対応を常に話し合っている。職員全員が入居者様の日々の状態や性格を理解して個々の状況を見極めている。おこり得る事故を把握し、ヒヤリハット事例報告書を作成し、事例検討を行うことで常に対処方法を考え事故防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>事故発生時・急変時の対応マニュアルをもとに急変や事故発生時の対応を常に話し合っている。また、消防署員、看護職員による定期的な勉強会を設けている。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回、避難訓練、消火訓練を行っている。近隣住民の協力のもと防災訓練を行い、地域で防災運動に取り組んでおり、緊急時に近隣住民の協力が得られるよう支援活動している。また、夜間の火災を想定した訓練も行ってあり、ご利用者が安全に避難できる方法を習得している。今回新たに防災管理者研修を2名が受講した。</p>	<p>○</p> <p>今後こすもすが、主体となって市における自主防災組織を立ち上げる意向である。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>ご家族様に連絡を取り説明し理解や協力を得て、申し送りなどの場で話し合うことで、抑圧感を感じない生活ができるようにしている。</p>	
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタルサインチェックを行い、血圧や体温の変化、顔色や睡眠状態、行動などに注意を払い、細かなことでも常に職員間で報告し合い、異常時には医師に速やかに報告し指示を受けている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各利用者様に服薬時間に区分された薬箱を用意し、準備は別々の職員が行うことをご利用者が服用するまでの間に重複したチェックが行われ誤薬がないよう支援している。ご利用者の状態を常に共有できているため服薬後の観察の意味が理解できている。粉碎の方は、ゼリーを使用し服用していただいている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>献立に根菜類や繊維の多い食材を多く取り入れている。また、乳製品を多めにしたり、水分をしっかりとっている。まずは適度な運動をすることで、便秘薬に頼らない対応を心掛けている。また、水分補給など記録し、適度に身体を動かすよう体操などすすめている。便秘時には、排便状況の記録をし、医師、看護師への報告をしている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアは必ず行い、不十分な方は職員が一部介助している。口腔状態を把握し、必要と判断すればご家族様に相談し、訪問歯科で治療や入れ歯の修理、調整、作成を依頼している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人様の使い慣れたもの、ご本人様が大事にしているご家族様との写真などを持ち込んでいただき、居心地良く生活できるよう工夫している。入居時の準備物の説明の際に使い慣れた身の回りのものを持って来ていただくように説明し、環境や生活歴に落差がないよう配慮している。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>一日2回以上の換気を行なっている。気候の良い時は窓を開け、季節の風を感じていただいている。温度調節もエアコンやカーテンなどでこまめに行っている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>内部は、バリアフリーにし、廊下やトイレなどに手すりがあり、安全に生活できるようにしている。羞恥心を伴う入浴は、見守りのもとできるだけ自分で安全に入浴できるように浴室内に手すりや浴槽台、浴槽手すり、滑り止めなどで安全を確保している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのご利用者様にあった個別のレクリエーションを行なうことで笑顔が見られている。居室が分からないご利用者様には、ご家族様の希望もあり、大きく名前を貼っている。</p>	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関の周辺には、常に生け花を置き、ご利用者様に生けていただいたり、手入れや水やりをしたり、ご利用者様が穏やかな気持ちになれるようにしている。日中、自由にベランダに出て気分転換を図ることができるよう見守りしている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

第3ユニット理念「利用者が楽しく笑顔で過ごせる毎日を提供する。」をもとにレクリエーション、行きたい所への外出支援など個別のケアに力を入れている。自分で発言できないご利用者様には、職員が組取り支援し気分転換を図っていただいている。歌が好きなご利用者様が多月1回の音楽療法なども採り入れ回想され、当時あった事などをお話していただき、ご利用者様の話題にもなっている。同様に、職員一人一人も楽しく笑顔で業務を行っている。ご利用者様一人一人がその人らしく楽しく安全に生活できるようご利用者様中心の業務を心がけている。また、少しずつご家族様の面会も増え、レクリエーションにも参加していただけたら更に地域交流に努めている。